

[番組名] 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日] 2013年10月11日

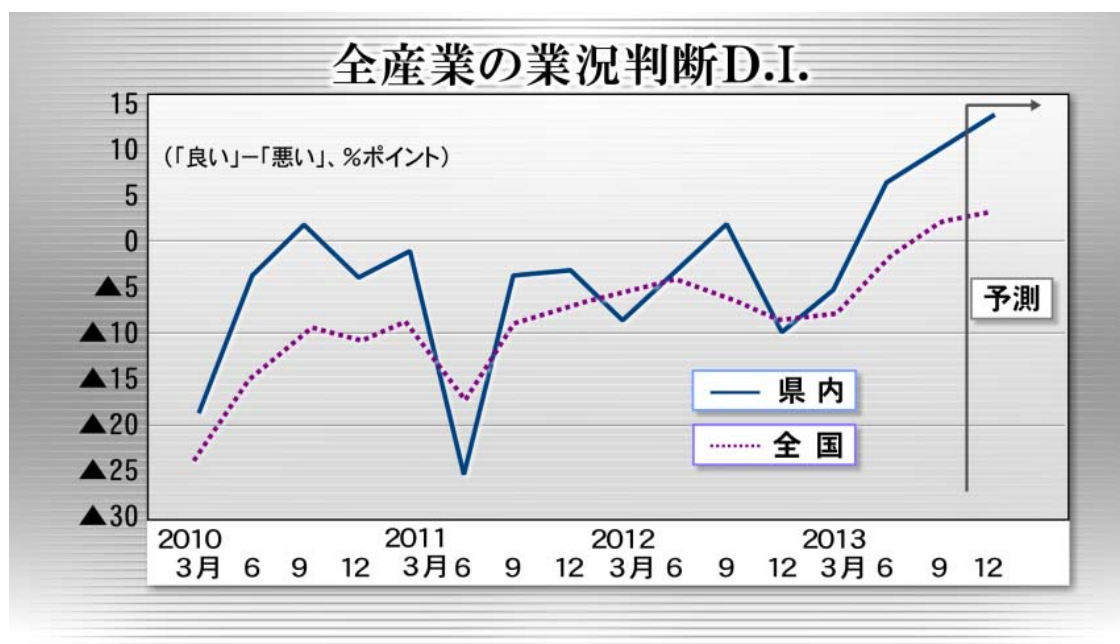
[テーマ] 緩やかに回復しつつある県内経済

(キャスター) 『プラスオピニオン』のコーナーは、日本銀行前橋支店長の相良雅幸さんに、『緩やかに回復しつつある県内経済』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(相良支店長) よろしくお願ひします。

県内経済は、春頃から持ち直し、夏からこの秋にかけて回復の動きが広がっています。こうした動きを、9月に実施し、先週公表しました「企業短期経済観測調査」、いわゆる日銀短観の結果からみてみましょう。

まずは、「業況判断D. I.」をご覧ください。



(相良支店長) このD. I. は、業況が「良い」と答えた企業の比率から「悪い」と答えた企業の比率を引いたものです。「良い」と答えた企業が多いほど、数値は高くなります。実線が県内の動き、点線が全国の動きです。今回の調査では、全産業が+10と3期連続で改善しました。+10というのは、2008年9月のリーマン・ショック以降、最高の水準です。先行きも+14と改善が続く予想です。なお、全国のD. I. も、前回の▲2から今回+2へプラス転化し、先行き+3と少しずつ改善しています。

(キャスター) 県内の業況判断が3期連続で改善し、リーマン・ショック以降で最高の水準ということですが、どのような業種で改善が進んでいるのでしょうか。

(相良支店長) はい。それでは、D. I. の改善が顕著な業種をご説明します。次のフリップをご覧ください。

業種別の業況判断D.I. 「良い」-「悪い」、%ポイント

| | 13年6月 | 9月 | 12月(予測) |
|----------------|-------|-----|---------|
| 製 造 業 | 11 | 13 | 16 |
| 輸送用機械 | 40 | 45 | 50 |
| 鉄 鋼 | 0 | 25 | 37 |
| 電 気 機 械 | ▲16 | ▲5 | 5 |
| 非 製 造 業 | 3 | 9 | 13 |
| 建 設 | 15 | 30 | 30 |
| 卸 売 | ▲40 | ▲20 | 0 |

(相良支店長) まず製造業では、輸送用機械や鉄鋼でプラス幅が大きく拡大しています。電気機械でもマイナス幅が急速に縮小し、先行きはプラス転化するとの予想です。製造業では、堅調な米国経済や円安効果などを背景に、自動車関連やIT関連の輸出や生産が増加し、企業マインドが改善しているのです。

次に、非製造業では建設や卸売の改善が進んでいます。公共工事や住宅建設が増加しており、建設業や建材卸など建設関連の業況が改善しているのです。

(キャスター) 業況の改善が続いているということは、企業の収益も良くなってきていると考えてよいのでしょうか。

(相良支店長) はい。その点につきましては、今年度の事業計画でご説明させていただきます。次のフリップをご覧ください。

2013年度 事業計画

前年度比 %

| | 全産業 ()内は大企業 | 修正率 |
|------|-----------------|------|
| 売上高 | 7.7(8.8) | 5.2 |
| 経常利益 | 7.4(14.6) | 3.9 |
| 設備投資 | 1.6(▲6.0) | ▲1.1 |

(相良支店長) 全産業の2013年度、つまり今年度の収益は、売上高の前年比が+7.7%、同じく経常利益が+7.4%と増収増益となる計画です。また、前回調査と比べて上方修正されており、当初予想よりも良くなると見込んでいます。とくに、大企業では、売上高の前年比が+8.8%、同じく経常利益が+14.6%と、大きく増える見通しです。ただし、設備投資については、前年比+1.6%と小幅の増加に止まっています。

(キャスター) 短観の結果をみると、景気は次第に良くなっているとの印象を受けますね。ただ、県内では「業況はまだ厳しい」との企業の声も少なくないようです。短観には、こうした企業の声がどのように反映されているのでしょうか。

(相良支店長) はい。今回の短観においても、そうした企業の声を裏付けるような調査結果があります。次のフリップをご覧ください。

製造業の 業況判断D.I.の変化

変化した業種数

| | 13年 6月 | 9月 |
|-----|-----------|----|
| 改善 | 10 | 5 |
| 横ばい | 5 | 6 |
| 悪化 | 0 | 4 |

中堅・中小企業 (全産業)の収益計画

前年度比、%

| | 中堅 | 中小 |
|------|------|------|
| 売上高 | 3.7 | 0.0 |
| 経常利益 | ▲5.4 | ▲4.0 |

(相良支店長) まず、業況判断D. I. については、製造業、非製造業ともに改善していますが、中にはやや悪化した業種もみられます。製造業では食料品や繊維、生産用機械などの4業種です。また、中堅・中小企業の収益計画は、増収ながらも減益となっています。この点は、増収増益となっている大企業とはやや異なる動きです。

(キャスター) 中堅・中小企業の計画が、増収でも減益となっている背景としては、どのようなことが考えられるのでしょうか。

(相良支店長) はい。その点については、価格判断D. I. の動きを用いて、ご説明します。次のフリップをご覧ください。

全産業の価格判断D.I.

「上昇」―「下落」、%ポイント

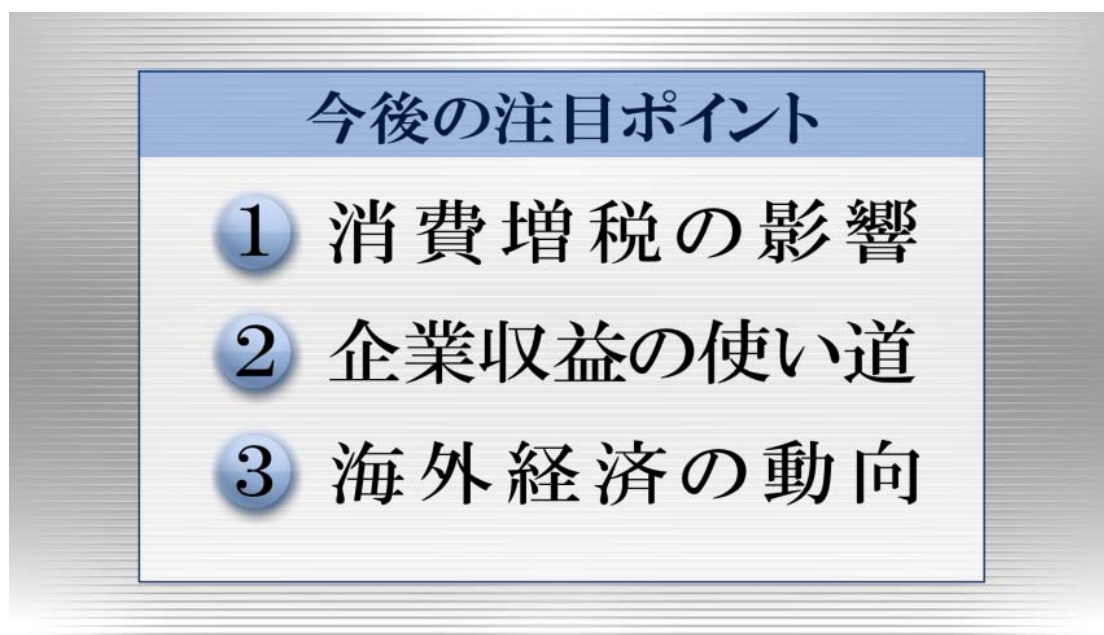
| | 13年6月 | 9月 | 12月(予測) |
|------|-------|----|---------|
| 仕入価格 | 30 | 35 | 37 |
| 販売価格 | ▲4 | 0 | 1 |

(相良支店長) まず、仕入価格の判断D. I. は、前回の+30から今回+35、先行き+37と、上昇を見込む企業が着実に増えています。これは、円安などを背景に輸入原材料やエネルギーの価格が上昇していることを反映していると思われます。一方、販売価格の判断D. I. は、前回▲4から、今回ゼロ、先行き+1と、さほど上昇していません。D. I. が示すように、仕入価格の上昇をそのまま販売価格に転嫁できない場合には、収益が悪化すると考えられます。中堅・中小企業では、こうした状況に直面しているのではないかと考えられます。

以上のことをまとめますと、県内経済は全体としては緩やかに回復しつつあり、とくに自動車やIT、建設の関連企業を中心に業況が改善しています。ただ、業種間や規模間のバラツキも出てきており、中堅・中小企業の収益改善はまだ十分進んでいません。したがって、業種別や規模別の動きを含めて景気回復の足取りをよくみていく必要があると思っています。

(キャスター) 景気回復が長続きするとよいのですが、消費税率の引き上げが決まり、今後の県内経済への影響が心配ですね。そこで最後に、今後の県内経済をみていくうえでの注目点をお聞かせください。

(相良支店長) はい。注目すべきポイントについて、次のフリップにまとめてみました。



(相良支店長) まず、仰るように消費増税の影響です。既に、住宅建設では消費増税を見越した着工の動きが出ています。過去の増税時の動きを踏まえ、増税後の反動減も予想されます。ただ、今回の増税と合わせて打ち出される経済対策の下支え効果もありますので、消費増税をめぐる強弱様々な動きを、よくみていく必要があります。

(相良支店長) 第2に、企業収益の使い道です。大企業を中心に、企業の収益は全般に改善しています。こうした企業が、今後、設備投資を行ったり、賃金を引き上げたりという形でよい循環を生み出していくのか、よくみていく必要があります。また、必ずしも収益の改善が進んでいない中堅・中小企業については、引き続き収益の動向をフォローしていく必要があります。

第3に、海外経済の動向です。県内企業の輸出が好調な背景には、円安効果に加えて米国経済が堅調なことが挙げられます。ただ、米国では今なお来年度の政府予算が成立せず、経済活動への影響が懸念されています。中国や欧州の経済も、一頃より改善しているとはいえ、まだ楽観できる状況ではありません。海外経済の動向は、輸出企業の多い県内経済にとって目が離せないポイントです。

(キャスター) 今日は、『緩やかに回復しつつある県内経済』ということで、お話をうかがいました。ありがとうございました。

以 上